

創建

そうこん

巻頭言／浅里和茂・1

Spirit Of Place／渡邊 宏・2

受賞作品紹介／陽田秀夫, 吉田明弘・3

博士学位論文・4

在校生等の活躍紹介・5

修士学位論文／卒業研究発表会プログラム・6

卒業設計作品展／展示会等出展作品／学会発表・7

卒業式・修了式の表彰者／教室ニュース・8

2011・3・25 VOL.45 NO.4 (通巻136号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

織田信長の好んだ敦盛の一節と同じ年齢に先ごろなってしまったが、とりあえず健康診断では大きな異常もなく、今のところなんとか無事に過ごせている。

少し前、たしかMTVのアンブラグドのイベントにエリッククラプトンが出ていたときのことで。たまたまテレビでこれを見ていると、譜面台を見つめるクラプトンの眼鏡がレンズの上下で屈折の具合が違っていました。偶然に照明の具合で分かっちゃったのですが、二重焦点つまり遠近両用だったのです。こちらにしてみればあのクラプトンが、です。かつてはアルコールや薬物で人生棒に振りかけたり、友達の奥さんを取っちゃったりした人が、です。これとほぼ同じ頃、ビデオアワードの表彰式にプレゼンターとして登場したのが昨年亡くなった俳優のデニスホッパー。封筒を開け、名前を読み上げる直前、サングラスをはずして別のものにかき替えたのです。つまり老眼用です。こちらもかつてはハリウッドの放蕩息子と呼ばれ、アメリカンニューシネマの旗手となり、5回も結婚しちゃった人が、です。当時はこの人たちもそうなのかと思っていました。2006年のつま恋で吉田拓郎は自嘲を込めて、みんな歳をとっていい人になったと言いました。時間の経過は誰にも平等にやってきて、そういう自分も新聞を読むときには眼鏡をはずすようになったり、右肩の動きがわるくなったりしてきました。

建物も時間を経れば老朽化しますし、利便性や新しい知見から改修を行うことが必要になってきます。クライストチャーチや長周期地震動を例に出すまでもなく、既存不適格と

なる建物の耐震補強は大事ですが、他にも仕上げ材の汚れや劣化、各種設備の更新など長く使用するためには手を入れ続けることが重要です。たとえば1968年に竣工した日本最初の超高層の霞ヶ関ビルは、1994年に完了するまで計画着手から8年もかけて、フロアや設備の更新を行いオフィスビルとしての競争力を維持しています。最近では耐震補強と同時にさまざまな改修を行うことで、内部の使い勝手を良くしたり、外見を一新させたりすることも頻繁に行われています。松屋銀座の耐震改修は成功例として知られていますし、公団住宅の2戸分を1戸とする改修も新しい手法として試行されています。

クラプトンの眼鏡

教授 浅里和茂

これらは建物にとって幸せな例かもしれませんが、まったく異なる結末を迎えるのが赤坂プリンスホテル、現グランドプリンスホテル赤坂ではないでしょうか。丹下健三によるこの建物は1983年の竣工時に賛否両論、かなりの反響を巻き起こし、その後は建物よりもバブル時代のお祭り騒ぎによって、さまざまな伝説が生まれて有名になりました。ここが今年の3月31日に営業を終了して、取り壊しとなるのは、当時の大騒ぎを知っているだけに少し寂しい気がしますし、取り壊しの理由の一つが低い天井高であることは意外です。この天井高は2400mmほど、住宅では一般的な高さですがほかのプレミアムなホテルと比べれば200~300mmほ

ど低く、競争力が保てなくなってきたようです。日常的には十分満足できる高さとも思いますが、ただ眠るためだけのホテルとは違い、プラスアルファの晴れの気持ちや海外の役員クラスなどを対象としたときには、もの足りないことも事実です。同じ頃オープンした有楽町マリオン、この第2期竣工部分をエスカレーターで降りていくと吹き抜け周辺の雰囲気がとてもよくて、今にもブライアンイーノが聞こえてきそうな気分でした。しかし、同じく変化の波に翻弄されていて、銀座・有楽町の推移を含めてとても気になります。

技術的には地上40階、延べ床面積69,000平方メートルもの超高層ビルをどのようにして解体するのかが注目されます。これまでも高層ビルの解体はありましたが、この建物の場合、群を抜く規模となり、環境問題、安全性、経済性なども含めてどのような工法が選択されるのか、今後増加する解体工事の動向を左右することにもなり、とても興味をそそられます。

壊されてしまう建物、竣工時のまま使い続けられる建物、内部・外部ともに変化しながらも生き残る建物、最初は周囲の景観からあまりにも浮き上がっていて、短命と思われながらも時を経て不思議と馴染んでしまった建物、さまざまですが設計者なら誰もが永く使って欲しいと思っていたはずです。

建築の寿命とはそれ自身もつ魅力だけではなく、その時々々の社会情勢にも大きく左右され、まさしく時代に翻弄されてしまうものなのでしょう。

本当に、人も建物も上手に歳をとるのはむずかしいものです。

Spirit Of Place

非常勤講師 渡 邊 宏



略歴

1976年 東北大学工学部建築学科卒業
岡設計入社 仙台支店勤務1996年 関・岡設計に改組
取締役設計監理部長2008年～ 日本大学工学部建築学科
非常勤講師

2010年 関・空間設計 代表取締役社長

1996年36年間続いた中央組織事務所から改組し、関・空間設計として東北で活動しています。当時の経済環境、事務所の組織再編、そしてより一層地域デザインにかかわろうとする私たちの姿勢の変化が根底としてありました。独立前後の作品として仙台駅前の超高層再開発ビル「アエル」、盛岡駅西口の市民ホールを併設した「マリオス」があります。

当時、その後の私たちの活動に大きな影響を与えた秋



上：小坂鉦山事務所 下：伝国の杜

田県小坂町「小坂鉦山事務所」のプロジェクトがあります。かつて鉦山の社屋であった近代化遺産の木造建築を100年という歳月とともに地域の財産として移築・再生するプロジェクトで、同時期に進行していた山形県米沢市のホールと博物館「伝国の杜」とともに地域デザインを深く意識した設計プロセスの大切さを改めて感じる契機となりました。こ

うした転機の中で私たちの組織理念「Spirit Of Place」が生まれました。

これまでその土地で大切にされてきた「もの」や「こと」を受け継ぎ、新しい価値をつくりだすこと—過去、現在、未来の連続とそのためのプロセスがその土地で親しまれる建築には必要と考えたからです。観光客でにぎわう秋田県角館町武家屋敷通りでは、代々伝わってきた古地図をもとに、市民の日常利用を兼ねた公民館として「武家屋敷 小野崎家 角館町武道館」を実現しました。



武家屋敷 小野崎家 角館町武道館

一方、「Spirit Of Place = その土地の歴史・風土そして人々との関係を重視しながらの活動」の自然な帰結として建築設計から地域デザイン、さらにまちづくりへと広がっていきました。その代表が公共建築賞優秀賞を受賞した「仙台市ガス局ショールーム」と道の駅「上品(じょうぼん)の郷」です。前者は中心街に建つショールームと子育て支援施設です。冬でも暖かい広場となるヒューマンなスケールを持つ内外のモールによって、表通りと裏通りをつなげ、路地裏の活性化への寄与と年間約36万人の来館者、多彩な事業を展開しています。後者は宮城県石巻市内三陸方面へ向かう国道45号線沿いの休憩、物産、レストラン、コンビニ、温浴施設で、地場産の杉材による格子構造、膜屋根とともに来館者数の多い全国的にも人気のある道の駅として終日にぎわっています。



上：仙台市ガス局ショールーム

下：道の駅「上品の郷」

私たちの業務の多くは公共建築です。特に少子化に伴う地域構造の変化と耐震安全性確保から学校建築が多くなっています。小中学校の設計では地域の最も身近な公共建築として、Spirit Of Placeを具現化すべく「ずっと一緒に考える」を合言葉に行政、地域、PTA、教職員、児童・生徒と一体となった参加型のプロセス展開を心掛けています。

地域の価値を継承し創出するためには「もの」づくりだけではなく「こと」おこしが大切です。常に地域デザインを意識した活動が私たちの根幹であるとともに、人と建築と地域との共生を図る、そしてそれができる組織でありたいと考えています。その柱は顧客・地域・役職員の3つの満足、変化に対応できる安定した組織経営、そして役職員の人間力と仕事力の向上と考えています。

今、建築家への期待と役割が多様化、変質しています。「もの」づくり、「こと」おこしの大切さと地域デザインの原理原則を常に意識しながら、豊かな資質と可能性を持つ学生の皆さんと、これからもいくつもの東北を継承しいろいろな東北を創出したいと考えています。

夏も冬も快適に

(第29回福島県建築文化賞優秀賞受賞 只見町立明和小学校)

非常勤講師 陽 田 秀 夫



本プロジェクトは統合によって空校舎となった旧明和中学校の校舎を、隣接する老朽化した明和小学校の代替として改修（一部増築）するという珍しい取り組みである。改修内容は、耐震改修を含む大規模改修で、コンクリート陸屋根を金属葺屋根とし、外断熱による断熱改修を行い、大幅な省エネルギーを実現した。（F F ストープによる局所暖房である同町立朝日小学校の暖房エネルギー消費量に対し、全館暖房である明和小学校のエネルギー消費量は21年度実績で51%であった。）ストックを活用しつつ良質の超長期建築として、省エネルギー、省CO₂のモデルプロジェクトを目指したものである。

設計時のワークショップにおいて、「只見の施設づくりは冬のこと、雪のことばかり考えて造っている。夏は盆地で暑い。学校は冷房がないので風通しの良い建物にしてほしい。」との意見が出されたのを受けて、総てのサッシュを横軸回転木製サッシュ（トリプルLowEガラス入り）を採用し、全面開放できる開口部とし、南側の軒の出を大きくし、夏の快適性を実現したが、このサッシュは建物の断熱性能を大幅に高め、冬の快適性と省エネルギーにも貢献した。さらに、バルコニーの無い只見の学校はガラスの清掃が問題となるが、このサッシュは180°回転し、内側から安全に清掃することができる。また、地産地消として只見産の杉材を多用し、RC造であっても木質系の素材空間となっている。

【作品データ】敷地面積：29,791.7㎡

延床面積：3,338.5㎡（校舎部分のみ）、増築部1,834.3㎡、大規模な模様替1,504.2㎡

構造：鉄筋コンクリート造2階建、一部3階建（耐火建築物）

【略 歴】1945年 福島県いわき市生まれ 1968年 武蔵工業大学建築学科卒業
1978年 株式会社建築事務所設立、代表取締役

【主な受賞歴】只見町立只見小学校：2004年 第22回福島県建築文化賞正賞
特別養護老人ホーム梅の香：2006年 第24回福島県建築文化賞準賞



外観全景



外観3階増築部分



内観教室部分

Y K K 健康管理センター

(2010年建築学会建築作品選奨, 2008年度グッドデザイン賞 受賞作品)

建築家 吉 田 明 弘

富山県黒部市にある企業診療所です。企業の地球環境への貢献として、何もない工場跡地に苗木から育てた木を植樹し、地域の本来の自然の姿である森を復元する広大な緑地（一部はYKKセンターパークとして一般公開）の中に、この建物は建っています。建物西側に「ルーム」と呼ばれる矩形で芝生による広大なオープンスペースを設け、「森」との境界線となる北から東にL型に連なる壁面を施設の壁面とすることで、ランドスケープと一体化された建築となることを意図しました。

外壁面は時間と共に雑草が生えて錆びていく（自然と同化する）ことを意図した、RCラス捨て型枠打放しによる荒々しい仕上げ面で構成し、一方屋根面は内部機能を反映した凸形状を持つ白くて薄い板として軽快に浮かばせ、両者の隙間から採光をとることで、軽快で印象的な内部空間を作り出しました。

このプロジェクトでは森の中に建築を建てるのではなく、建築のまわりが将来森となり、建物が森の中に埋没する、という数十年に及ぶ長い時間軸を想定して、ランドスケープを含めた建築デザインを考えていきました。

「壊さない時代」を迎えていますが、我々建築家はとかく長寿命化のための技術的な側面に着目しがちです。建築が周辺の環境も含めた時間の中で年老いても（たとえ廃墟になっても）環境に調和して生きながらえ、更には一番大切なことはそんな中でもある種の新鮮さを失わないこと、は今後私たちが考えて行くべき課題であると思います。

【作品データ】設計・建築：大野秀敏+吉田明弘/APLdw

敷地面積：12,701.30㎡ 延床面積：976.21㎡ 構造・階数：RC造一部S造地上1階

【略 歴】1965年 東京都生まれ 1990年 日本大学工学部建築学科卒業（清水公夫研究室）
1990年～2004年 アプル総合計画事務所 2004年にアプル総合計画事務所取締役就任
2005年～ APLdw（アプルデザインワークショップ）設立（大野秀敏氏と共同）
代表取締役所長



平成22年度 博士（工学）学位論文

平成22年度は、博士後期課程に在籍する鈴木裕介院生が博士（工学）の学位を取得された。
次にその論文要旨を掲載し、ここに祝福したい。

「斜補強筋及び鋼繊維補強コンクリートを用いた 高強度R C造内柱・梁接合部の弾塑性挙動に関する研究」

建築学専攻 鈴木 裕 介

本論文は、高強度材料を使用した鉄筋コンクリート（以下、RC）造柱・梁接合部（以下、接合部）の弾塑性挙動に関する研究として、以下の2点を課題として取り上げ、それらをまとめた研究成果である。

- ① 接合部のせん断破壊抑制のため、接合部パネルに斜補強筋及び鋼繊維補強コンクリートを用いた高強度RC造柱・梁接合部の正負交番繰返し載荷実験による破壊挙動の検討
- ② 既往の研究で提案されている接合部の破壊モードを活用した、接合部のせん断強度評価式の提案

補強法は、接合部のせん断ひび割れに直交させるようX型に配筋する接合部斜補強筋（以下、斜補強筋）と接合部パネル及びその近傍にのみ鋼繊維補強高強度コンクリートを使用する工法である。X型配筋は、近年、柱及び梁部材のせん断性能改善に大きく貢献している補強法であり、鋼繊維補強は古くからコンクリートの靱性能向上を目的に開発された手法である。以上の2種類の補強法に着目し、実験的検討を行った結果、斜補強筋は接合部せん断ひび割れの開口を拘束し、接合部のせん断破壊抵抗機構である斜め圧縮ストラットの幅を広げる効果があること、鋼繊維補強コンクリートは接合部の損傷を著しく軽減させることを明らかとしている。

一方、骨組架構に地震力が入力した際、接合部の応力状態は、コンクリートの圧縮強度、柱軸力、接合部のアスペクト比及び横補強筋量といった多数の影響因子に左右されることから非常に複雑となる。そのため、日本建築学会における接合部のせん断強度式は、実験資料に基づく経験式として提案されている。この式は、接合部に使用するコンクリートの

圧縮強度に大きく依存するものであり、柱軸力などの他の影響因子は評価されていない。よって、多数の影響因子を考慮する接合部の新しいせん断理論式の提案として、本研究では、接合部のせん断変形は接合部の斜めひび割れにより4つの剛体に回転して分割されるものである、といった、既往の研究成果を参考とし、その分割面において、平面が保持されることを仮定した曲げ理論を採用することで理論式を誘導した。なお、本理論式は、部材端回転変形などは無視して構築したため、得られる解（以下、理論値）は、接合部のせん断強度及び剛性の下限を取ると仮説を立てている。理論式検証のため、コンクリート強度以外の接合部の影響因子の中で、特に大きく影響すると考えられる、接合部せん断余裕度 α 及び軸力比 η を変動させた3次元FEMによるパラメータ解析を行い、以下の知見を得ている。解析結果と理論値を比較すると、 $\alpha=1.0$ 以下である試験体に対して、理論値は解析結果の約5~10%下回る結果を示し、かつ、 $\eta=-0.05\sim 0.10$ と変動することによる架構の耐力の変動を良好に模擬できる。更に、斜補強筋を適用させた理論式による結果と解析結果の比較においても、 $\alpha=1.0$ 以下の試験体において同様の結果が得られたため、本理論式の妥当性を裏付けるとともに、斜補強筋が接合部のせん断挙動に与える影響の定量的評価が可能であることを示すに至っている。

*当該論文の審査委員会は、下記の4名であった。

主査：倉田 光春（日本大学工学部 教授）

副査：白井 伸明（日本大学理工学部 教授）

出村 克宣（日本大学工学部 教授）

Sanjay Pareek（日本大学工学部 准教授）

コンペ入賞報告

工学部研究生 石賀 悠也

「第14回TEPCOインターカレッジデザイン選手権（課題：ダメハウス）」において、最終審査10作品に入選し佳作に入賞させて頂きました（397作品中）。審査員長の青木淳先生や、審査員の西沢立衛・永山祐子・五十嵐太郎ら各先生等に評価されたことは大変嬉しく思います。

また、このコンペの審査会やその後の懇談会での多くの建築家・建築学生との意見交換を経験して、まだまだ建築には可能性があると感じました。アイデアコンペは実施コンペと違い、現実性に乏しく時に建築的でないと言われます。しかし逆に、アイデアコンペだからこそ新鮮な視点や新たな価値を共有することで、社会の中での建築の立場が大きくなったり、社会を根本から見直し、ある意味身軽になることで、建築の可能性を広げることになるかも知れないと思いました。

私の次なる活動の場は中国・上海となりますが、今までの経験や実感を出発点とし、社会人になっても建築の可能性・できることは何であるかということを探求して、自分なりの回答を求め続けていきたいと考えています。



第14回 TEPCO インターカレッジ
デザイン選手権2010 提出作品

公開審査会の様子

JIA東北建築学生賞奨励賞を受賞して

3年次生 佐久間 皓惟

今回、第14回JIA東北建築学生賞（東北の大学・短大・高専・専門学校から応募37作品）において奨励賞を頂き、自分の作品が学外でも評価されたことは、大変嬉しく思います。この結果は個人的に大きな自信にもなりましたが、一方で設計課題をご指導頂いた先生方をはじめ研究室の先生・先輩・友人達のサポートがあって達成できたということを、審査会後に日を改めて行われた今回の受賞者を中心とする座談会でより実感しました。その座談会では、建築家の方々の受賞作品に対する講評や意見交換が中心で、新鮮な見方や評価もありましたが、普段のエスキスや周囲との建築談義と類似している視点も多かったように思えました。つまり、学内での設計課題で、色々考えながら取り組むことで、あるレベルに到達できる環境が近くにあることを実感できたことが、大きな収穫だったと思います。今後も設計課題はじめ身近なことにも、より一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



濱田幸雄教授が全国建築審査会協議会表彰を受けました

昨年10月28日、全国建築審査会長会議において全国建築審査会協議会表彰を受けました。この表彰は、全国特定行政庁の建築審査会委員として、通算任期が10年以上となる委員を対象としたものであり、関係各位にこの場を借りて感謝申し上げます。

建築審査会は、建築基準法第78条に規定されるとおり、特定行政庁の裁量が認められた例外的許可に同意を与えることや、同法の規定に基づく審査請求に対する裁決についての議決を行うことが主な役割です。建築審査会の同意が必要とされる内容は、幅員の狭い道の道路指定、道路内における建築許可、用途地域・容積率・第1種お

よび第2種低層住居専用地域内の高さ制限・日影規制などに対する例外的許可などが具体例として挙げられます。このように、街づくりに直結する問題への対処が求められることから、公正かつ将来に渡り社会に貢献できる建築であるかを考えて委員を務めさせていただきました。（濱田幸雄記）



平成22年度 日本大学大学院工学研究科建築学専攻 修士学位論文発表会

日時：平成23年2月18日(金) 場所：日本大学工学部 70号館6階 7061教室

1. 低層RC造建物における耐震補強効果の検討 石橋慧人(指導：千葉正裕 教授)
2. 既存鉄骨造体育館における接合部耐力の評価手法に関する研究 板垣鉄哉(指導：浅里和茂 教授)
3. 自転車の走行に必要な身体動作寸法に関する実験的検討
－自転車の駐輪と走行に必要なスペースの計測－ 岡田 遼(指導：若井正一 教授)
4. 仙台市中心市街地の施設用途構成に関する研究
－アーケードを対象とした施設用途構成について－ 岡野健太郎(指導：三浦金作 教授)
5. メディア情報の差異による経路探索行動に関する研究
－注視傾向と空間把握について－ 金子光義(指導：三浦金作 教授)
6. 自己修復機能を付与したコンクリートを用いたRC梁部材におけるひび割れの修復に関する基礎的研究
熊田廣樹(指導：Sanjay PAREEK 准教授)
7. 建築家の資格職能と建築教育に関する国際比較研究
－建築家の資格取得に必要な建築教育について－ 五島デニセ(指導：若井正一 教授)
8. 水都・ヴェネツィアの広場の空間構成に関する研究
－広場利用者の行動特性について－ 後藤 司(指導：三浦金作 教授)
9. アーケードのある街路の空間特性に関する研究
－建築物ファサードと看板設置状況について－ 佐藤 壮(指導：三浦金作 教授)
10. 劇場・ホールのサインの配置に関する研究
－中・大規模の劇場・ホール施設を対象として－ 三瓶宜子(指導：浦部智義 准教授)
11. 営造法式が日本の伝統建築に与えた影響の研究 志村岳洋(指導：狩野勝重 教授)
12. 職住関係から見た陶芸を生業とする窯元の生活実態に関する調査研究
－栃木県益子町に立地する窯元の住まいについて－ 日下田智紀(指導：若井正一 教授)
13. ボイドスラブの床衝撃音遮断性能に関する研究 藤田 怜(指導：濱田幸雄 教授)
14. 住居併用型「民宿」の生活実態に関する調査研究
－南会津郡旧館岩村に立地する民宿について－ 星ルミ子(指導：若井正一 教授)
15. アルミ薄板を用いたトラスの非線形挙動に関する基礎的研究
和田成就(指導：倉田光春 教授, 野内英治 専任講師)
16. ホワイエを含む施設内オープンスペースにおける利用者の滞在分布と意識に関する研究
－一般開放性を重視した劇場・ホールを持つ公立文化施設を対象として－ 渡邊洋一(指導：浦部智義 准教授)

平成22年度 日本大学工学部建築学科 卒業研究発表会

日時：平成23年2月7日(月) 場所：日本大学工学部 70号館1階 7014教室(五十嵐ホール)

1. 小学校のオープンスペースに関する研究 新保雄介・矢吹さおり(指導：市岡綾子 専任講師)
2. 勤務時における医師の移動に関する研究 遠藤安泰・羽入綾香(指導：浦部智義 准教授)
3. 身体障がい者ケア付き住宅の居住空間に関する研究
－支援の方向性別の改修状況の把握と平面の比較－ 齋藤隆文(指導：松井壽則 准教授)
4. 仙台市中心市街地の施設用途に関する研究
－アーケード沿1階部分の施設用途の経年変化傾向について－ 古川 新(指導：三浦金作 教授)
5. 自転車走行環境整備に関する研究 鈴木 崇(指導：土方吉雄 准教授)
6. 階段昇降時の身体動作寸法とその特性に関する人間工学的検討
－歩行者の足元と段鼻周囲に構成される機能寸法の計測－ 太田成美・影山由季乃(指導：若井正一 教授)
7. 重量床衝撃音の評価方法の検討 成島靖貴(指導：濱田幸雄 教授)
8. ハニカム構造に関する基礎的研究
－ユニット幅及び板厚を変化させたアルミ・ハニカムチェアのFEM解析－ 馬場奈穂美(指導：Buntara S. GAN 准教授)
9. 既存鋼構造建築物の弾塑性解析による耐力評価 上村拓也(指導：浅里和茂 教授)
10. 低層RC造建物における耐震補強効果の検討 江原 修(指導：千葉正裕 教授, 日比野巧 助教)
11. フレーム構造の弾塑性地震応答解析に関する基礎的研究
－数値積分に基づく離散化マトリクスによる解析法－ 有馬達也(指導：倉田光春 教授)
12. トラスの非線形挙動に関する実験的研究 内田圭祐(指導：野内英治 専任講師)
13. 表面含浸材の性能評価 和賀直人(指導：出村克宣 教授, 齋藤俊克 助手)
14. ポリマーセメントペーストを用いたピンニング補強法による歴史的レンガ造建築物の耐震補強に関する研究
金内晋之介・関根裕樹(指導：Sanjay PAREEK 准教授)

平成22年度卒業設計作品展

今年度の卒業設計展は2011年1月30日(月)～2月1日(金)の3日間に亘り、70号館1階7012・7013教室にて開催され16作品が出展した。最終日には例年と同様の形式プレゼンテーションを開催した。午前のポスターセッション形式を経て、19名の教員(常勤9名、非常勤10名)により投票された結果を基に10作品を選定した。午後には、各15分程度でのパワーポイントを用いた公開プレゼンテーションを実施した。設計指導を担当する非常勤講師11名も参加し、計14名の教員による活発な質疑応答・講評が行われた。

2月17日(木)～19日(土)には、ビッグアイ6階を会場に学外展示会を開催し、今年度は以下に紹介する5作品を出展した。17日の夕刻には、『現代社会に対する建築からの提案』と題したフリートークセッションが開催され、JIA会員の建築家の方々と学生とが建築について語り合う有意義な機会が設けられた。参加者から寄せられたメッセージを以下に紹介する。(文責:編集係)

- ・県内を対象にした計画が無かったのは残念ですが、現代的で面白いテーマに取り組んでいると思います。(日本建築学会関係者)
- ・卒業設計作品を通して、現代の若者がきちんと社会の問題に向き合っており、建築で解決しようとしていることが分かり、頼もしく思いました。また、その方法はいろいろあるはずなので、私たち先人が考えていることと違っていいと思います。自分で考えることが大事なのです。(JIA関係者)



学内展示：公開プレゼンテーション



学外展示：フリートークセッション

平成22年度卒業設計コンクール・展示会等出展作品

■日本建築家協会「卒業設計コンクール2011」

三浦 洵 (指導:浦部智義 准教授)
境壊線 - 新大久保架け橋学校 -

■レモン画翠「第34回学生設計優秀作品展」

千田龍成 (指導:若井正一 教授)
雪のギャラリー - 五条目朝市の新たな提案 -

■近代建築「卒業制作'11」掲載

小澤悠太 (指導:浦部智義 准教授)
結縁 - 子供のいない住宅地 -

■日本建築学会「全国大学・高等専門学校卒業設計展示会」

圓谷一衛 (指導:浦部智義 准教授)
有楽町で会いましょう
- 日比谷公園と帝国ホテル -

■日本インテリア学会「第18回卒業作品展」

狩野良介 (指導:松井壽則 准教授)
コモン通り一丁目
- 障がい者と健常者の地域交流のかたち -

学 会 発 表

* 届け出があった記事を掲載

■12th East Asia-Pacific Conference on Structural Engineering and Construction (EASEC-12)

日時: 2011年1月26日～28日 会場: 香港会議展覽センター

- ・ Reduction and Recovering Method for MDOF Plane Stress Problems to an SDOF System
Naomichi Kobayashi, Buntara S. Gan, Atsushi Maruyama and Yasuhiro Anzai
- ・ A Genetic Algorithm based Form-Finding for Tensegrity Structure
Manabu Yamamoto, Buntara S. Gan, Kaori Fujita and Junpei Kurokawa
- ・ Strain Reduction and Recovering Method
Kazutaka Sugiyama, Mitsuharu Kurata, Buntara S. Gan and Eiji Nouchi
- ・ Bounding Grid Algorithm for Calculating Particle Interactions in SPH Simulations
Naohiro Kawada, Buntara S. Gan, Iswandi Imran and Hiroyuki Ninomiya

■日本都市計画学会南東北ブロック学術交流会

日時: 2011年2月28日 会場: まごっせプラザ(郡山市)

- ・ 仙台市中心市街地の施設用途構成に関する研究 - アーケードを対象とした施設用途構成について -
岡野健太郎, 三浦金作, 土方吉雄
- ・ アーケードのある街路の空間特性に関する研究 - 建築ファサードと看板設置状況について -
佐藤 壮, 三浦金作, 土方吉雄
- ・ アーケードのある街路の空間特性に関する研究 - 来街者の歩行経路と行動パターンについて -
柳沼一輝, 三浦金作, 土方吉雄
- ・ メディア情報の差異による経路選択行動に関する研究
金子光義, 三浦金作, 土方吉雄
- ・ 郡山市の自転車走行環境整備に関する研究
鈴木聖太, 土方吉雄, 三浦金作
- ・ 景観形成に着目した都市更新手法に関する研究 - 街路景観構成要素の心理量評価と物理量評価との関係 -
佐々木健人, 土方吉雄, 三浦金作

平成22年度 卒業式・修了式における表彰者

平成23年3月25日

◇齋藤賞◇

修士論文「アルミ薄板を用いたトラスの非線形挙動に関する基礎的研究」

和田成就 (指導: 倉田光春 教授, 野内英治 専任講師)

◇北桜賞◇

修士論文「メディア情報の差異による経路探索行動に関する研究 - 注視傾向と空間把握について -」

金子光義 (指導: 三浦金作 教授)

修士論文「建築の資格職能と建築教育に関する国際比較研究 - 建築家の資格取得に必要な建築教育について -」

五島デニセ (指導: 若井正一 教授)

修士論文「劇場・ホールのサインの配置に関する研究 - 中・大規模の劇場・ホール施設を対象として -」

三瓶宜子 (指導: 浦部智義 准教授)

◇桜建賞◇

卒業設計「境壊線 - 新大久保架け橋学校 -」

三浦 洵 (指導: 浦部智義 准教授)

卒業論文「フレーム構造の弾塑性地震応答解析に関する基礎的研究 - 数値積分に基づく離散化マトリクスによる解析法 -」

有馬達也 (指導: 倉田光春 教授)

卒業論文「ポリマーセメントペーストを用いたピンニング補強法による歴史的レンガ造建築物の耐震補強に関する研究」

金内晋之介・関根裕樹 (指導: Sanjay PAREEK 准教授)

卒業論文「階段昇降時の身体動作寸法とその特性に関する人間工学的検討

- 歩行者の足元と段鼻周囲に構成される機能寸法の計測 - 太田成美・影山由季乃 (指導: 若井正一 教授)

卒業論文「重量床衝撃音の評価方法の検討」

成島靖貴・星 明彦 (指導: 濱田幸雄 教授)

◇優等賞◇

中西敦士, 中隅賢治, 三浦 洵

◇工学部長賞◇

学術・文化部門: 松井 岬

第13回JIA東北建築学生賞 (日本建築家協会東北支部主催) 特別賞受賞 作品名「無限 竹採物語」

◇父母会賞◇

大河原慧一, 齋藤史大

◇校友会賞◇

高橋成美 共同住宅駐車場で車両火災に係る初期消防・消防署への初期通報

■小林直道君と丸山淳君 (ブンタラ研・M1) は, 10月25日に受験したFE資格試験に合格した (FE: Fundamentals of Engineering, PE資格の一次試験)。 (写真: 左: 小林君, 右: 丸山君)



■市岡講師は, 11月15日, 郡山市より郡山市住生活基本計画策定委員会委員を委嘱された。

■石賀悠也君 (浦部研・研究生) は, 12月18日, 建築学館ホールにて開催された「第14回TEPCOインターカレッジデザイン選手権 (課題: ダメハウス)」において, 応募総数397作品の中から最終審査10作品に入選し, 佳作を受賞した (詳細はp. 5に紹介)。

■若井教授は, 12月19日, 福島県白河市主催の「私の好きな白河の景観50選」の発表会において, 「次世代へ守り育む白河の美しい景観」と題して記念講演を行った。

■土方准教授は, 12月21日, 郡山市より郡山市市民協働のまちづくり推進協議会委員を委嘱され, 副委員長に選出された。

■田村富昭氏 (工学部OB, 米国在住の建築家, アーコサンティのディレクター) は, 1月21日に来校し, 「未来型エコビレッジ・アーコサンティの設計理論について」と題して講話された。

■齋藤怜君 (若井研・4年生) は, 1月21日, 平成23年度日本大学本部の交換・派遣留学生試験に合格してオレゴン大学へ派遣されることになった。

■若井教授は, 1月26日, 福島県より福島県開発審査会委員の委嘱を受け, 同会長に就任した。

教室ニュース

■若井教授は, 2月1日, 白河市より白河市景観審議会初代会長を委嘱された。

■阿部純也君 (土方研・4年生), 大佐古和明君, 廣野由美さん, 門馬智美さん (土方研・3年生) は, 2月1日, 第7回日本再発見塾実行委員会より学生実行委員を委嘱された。

■市岡講師は, 2月6日に福島中央テレビにて放映された, 「おしえて! うつくしま」において, 須賀川市に

おける地域活動の取り組みが紹介された。

■阿部直人非常勤講師は, 2月14日, 作品「細沼の家」が, 郡山市より平成22年度郡山市景観まちづくり賞を表彰された。

■土方准教授は, 2月14日, 郡山市より郡山市中心市街地活性化シンポジウムのパネルディスカッション「魅力あるまちなかとは」のコーディネーターを委嘱された。

■土方准教授は, 2月21日, 福島県より福島県都市計画審議会都市政策推進専門小委員会委員を再度委嘱された。

■浅里教授は, 2月22日, 福島県立郡山北工業高等学校活性化事業・「第7回北高テクノフェア」に講師として出席, 9件の発表の後, 講評を行った。

■鈴木崇君, 長谷浩治朗君, 大谷達也君 (土方研・4年生) は, 2月25日, NPOまごっせKORIYAMAの依頼により「まちなか自転車ワークショップ」で卒業研究論文を発表した。

■(社)日本都市計画南東北ブロック学術交流会 (実行委員長: 三浦金作教授) が, 2月28日, 郡山市・まごっせプラザで開催された。